

# 日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2023年4月25日 火曜日

## 動的アクションのイベント有効範囲を確認する

Oracle APEXの動的アクションにイベント有効範囲という設定があります。このイベント有効範囲として、静的、動的、1回のどれかを選ぶことができます。

簡単なアプリケーションを作成し、このプロパティイベント有効範囲の使い方を確認します。

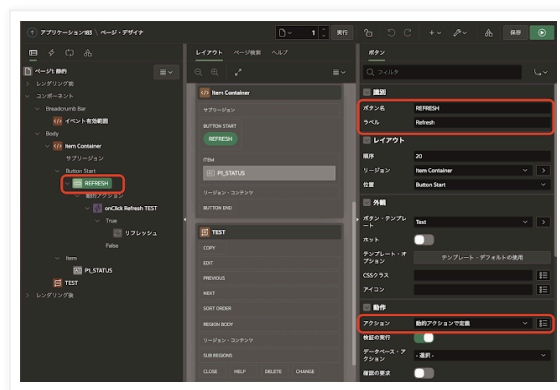
### 確認アプリケーションの作成

以下のページを作成し、それぞれイベント有効範囲が異なる動的アクションを作成します。

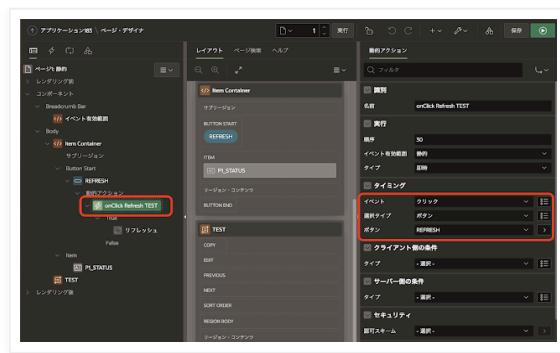
ボタン、ページ・アイテム、動的コンテンツのリージョンを作成します。



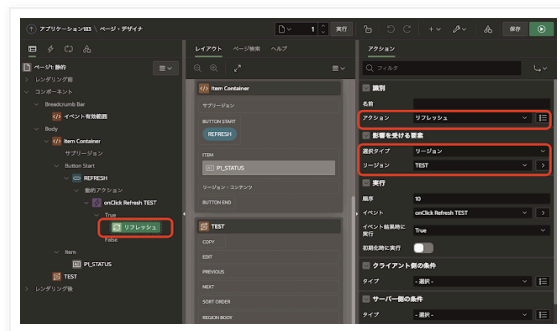
ボタンREFRESHをクリックすると、リージョンTESTをリフレッシュします。ボタンの動作のアクションとして動的アクションで定義を指定します。



動的アクションのタイミングのイベントはクリック、選択タイプはボタン、ボタンはREFRESHになります。

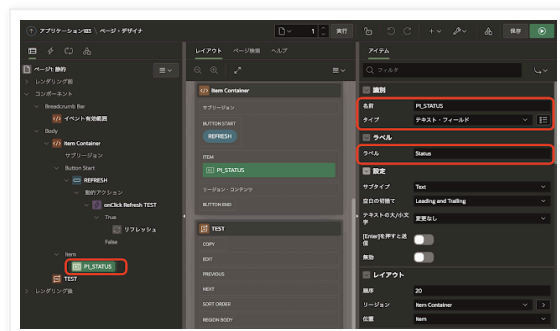


実行するTRUEアクションとしてリフレッシュを選択します。影響を受ける要素の選択タイプにリージョン、リージョンにTESTを指定します。



ページ・アイテムP1\_STATUSを作成します。タイプはテキスト・フィールドです。このページ・アイテムは、動的アクションのイベント有効範囲の違いを確認するために使用します。

ページ番号1にイベント有効範囲が静的のケース、ページ番号2に動的のケース、ページ番号3に1回のケースを実装します。そのため、作成するページ・アイテムは、ページ番号に従ってP1\_STATUS、P2\_STATUS、P3\_STATUSとなります。



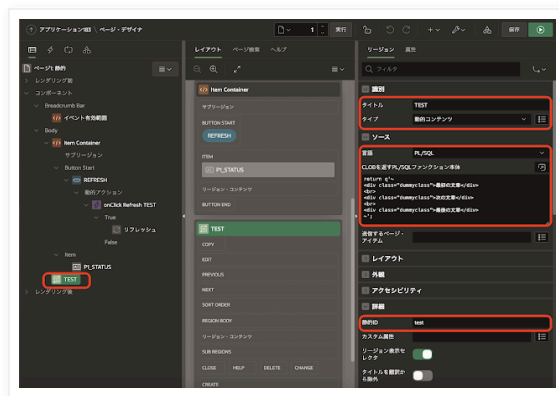
タイプが動的コンテンツのリージョンを作成します。

ソースのCLOBを返すPL/SQLファンクション本体として、以下を記述します。

```
return q'~
<div class="dummyclass">最初の文章</div>
<br>
<div class="dummyclass">次の文章</div>
<br>
<div class="dummyclass">最後の文章</div>
~';
```

クラスdummyclassが設定されたDIV要素に対して動的アクションを作成します。この要素にマウスが乗った時にテキスト・コンテンツをページ・アイテムPn\_STATUSにコピーします。

詳細の静的IDとしてtestを設定します。



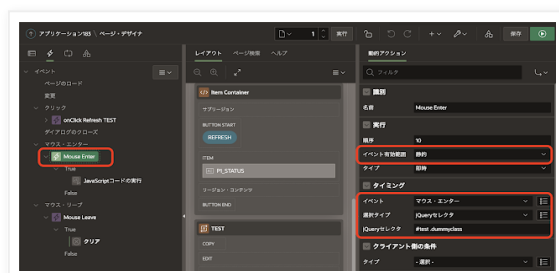
## イベント有効範囲が静的のケース

動的コンテンツに含まれるDIV要素に動的アクションを作成するため、動的アクション・ビューより動的アクションを作成します。

実行のイベント有効範囲として静的を選択します。

タイミングのイベントはマウス・エンター、選択タイプはjQueryセレクト、jQueryセレクトとして#test.dummyclassを指定します。

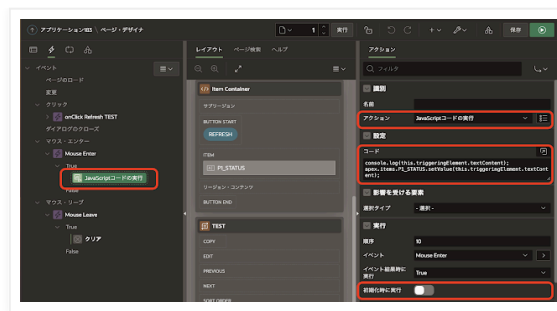
リージョンTESTに含まれるDIV要素（classにdummyclassを含む）にマウスが乗ると、TRUEアクションが実行されます。



実行するTRUEアクションとしてJavaScriptコードの実行を選択し、設定のコードとして以下を記述します。

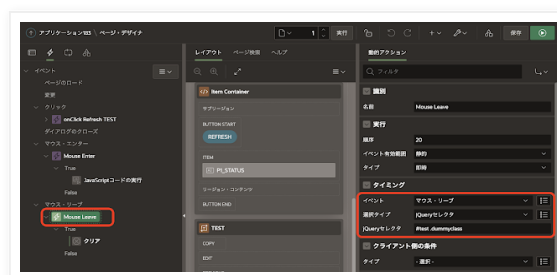
```
console.log(this.triggeringElement.textContent);
apex.items.P1_STATUS.setValue(this.triggeringElement.textContent);
```

初期化時に実行はオフにします。



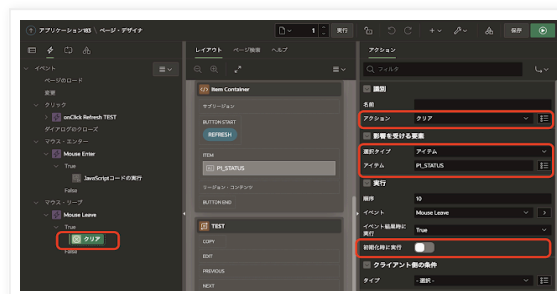
マウスが離れたときに、ページ・アイテムをクリアする動的アクションも作成します。

タイミングのイベントにマウス・リーブを選択します。選択タイプ、jQueryセレクタは、マウス・エンターと同じ設定にします。

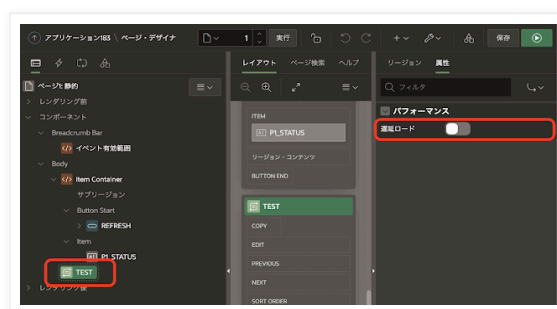


TRUEアクションとしてクリアを選択します。影響を受ける要素の選択タイプはアイテム、アイテムとしてP1\_STATUSを選択します。

実行の初期化時に実行はオフにします。



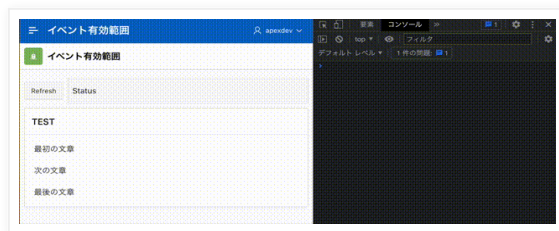
リージョンTESTの属性にあるパフォーマンスの遅延ロードは、オフであることが必須です。



イベント有効範囲が静的の場合、動的アクションが設定されたHTML要素が更新されるとイベントが処理されなくなります。ページ全体の再ロードを伴わない更新は、一般にリージョンのリフレッシュとして実装されています。遅延ロードがオンの場合は、ページのロード後にリージョンのリフレッシュを実行するといった動作になるため、イベントが処理されなくなります。

イベント有効範囲が静的の場合は、以下のような動作になります。

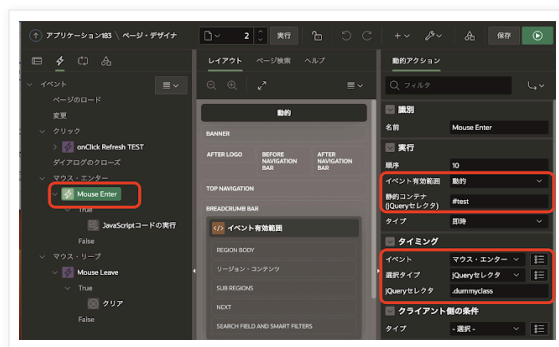
ページ・ロード直後はDIV要素にマウスを乗せると動的アクションが呼び出され、ページ・アイテムP1\_STATUSに文字列がコピーされます。その後、ボタンRefreshをクリックし、リージョンTESTをリフレッシュすると、動的アクションは（ページを再ロードするまで）呼び出されなくなります。



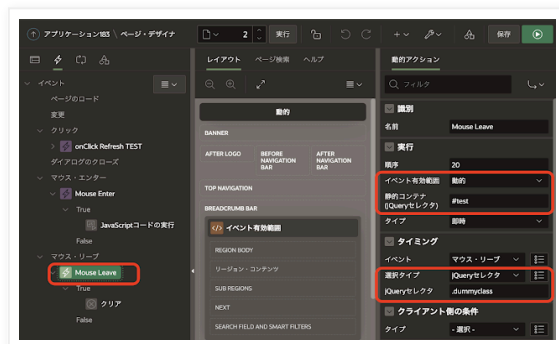
## イベント有効範囲が動的のケース

実行のイベント有効範囲を動的にします。静的コンテナ(jQueryセレクタ)として`#test`を設定します。`#test`で指定されるリージョンTESTの内容は、リフレッシュを実行することにより書き換えられます。しかし、リージョンTESTの枠は変わらないため、静的コンテナとして指定できます。

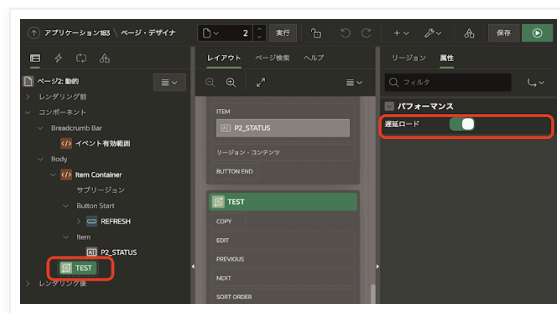
タイミングのイベントはマウス・エンター、選択タイプとしてjQueryセレクタ、jQueryセレクタとして`.dummyclass`を指定します。



動的アクションMouse Leaveもイベントにマウス・リーブを選択する以外は、マウス・エンターと同じ設定にします。

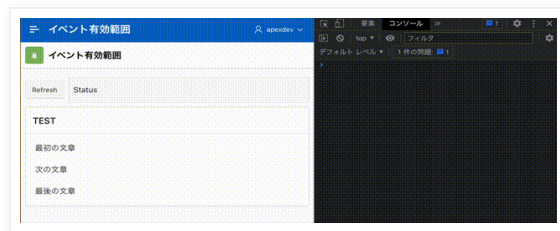


イベント有効範囲を動的としている場合は、リージョンTESTの遅延ロードをオンにできます。



イベント有効範囲を動的にした場合の動作です。

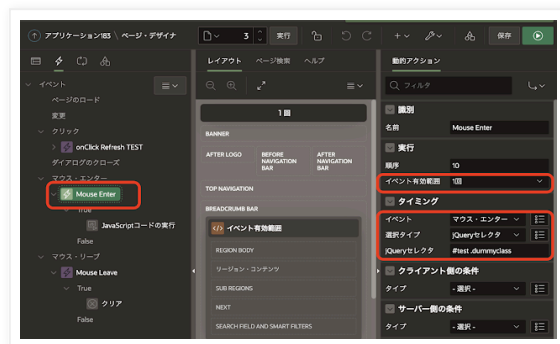
リージョンのリフレッシュを行った後も動的アクションが呼び出されています。



## イベント有効範囲が1回のケース

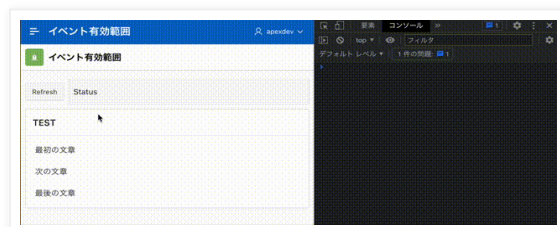
イベント有効範囲の1回は静的と近いですが、動的アクションが1回呼び出されると、それ以降は（ページが再ロードされるまで）呼び出されません。

実行のイベント有効範囲は1回、タイミングの選択タイプはjQueryセレクト、jQueryセレクトとして#test .dummyclassを設定します。リージョンTESTの遅延ロードはオフにします。



イベント有効範囲を1回にした場合の動作です。

ページ・ロード直後に1回だけ動的アクションが呼び出されますが、それ以降は呼び出されなくなります。また、呼び出されない状況はリージョンのリフレッシュを行っても変わりません。



動的アクションのイベント有効範囲の説明は以上になります。

今回の確認作業で使ったアプリケーションのエクスポートを以下に置きました。

<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/dynamic-actions-event-scope-test.zip>

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 16:55

共有

---

◀

ホーム

▶

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。  
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.

---